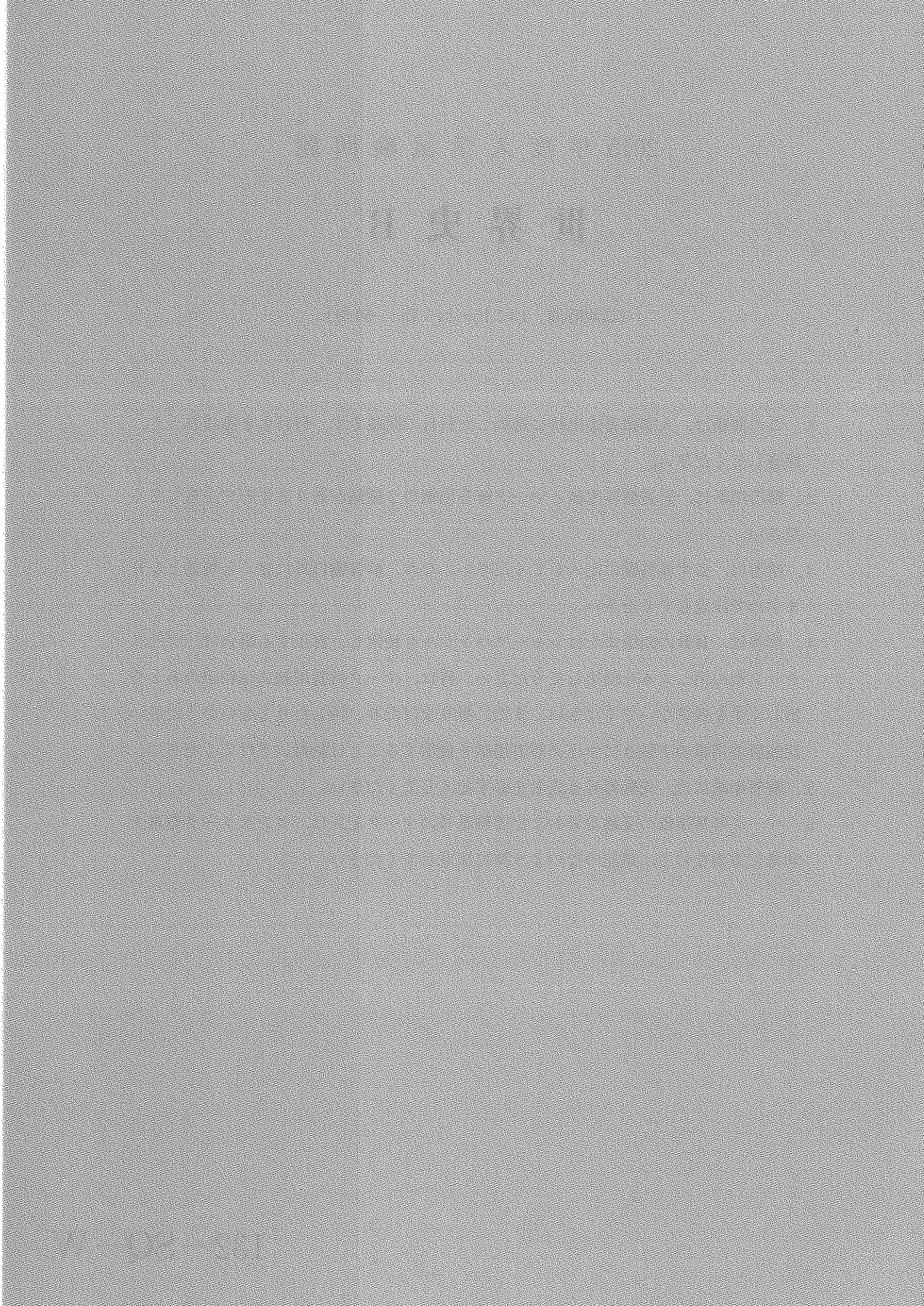


2015 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(31点)

アメリカからヨーロッパへもたらされたといわれているある疫病は、植物に壊滅的な打撃をあたえた。一つの畑にいくつもの種類を植えていく農法では、この病気はそれほどひろまることはないが、生産性の高い品種や特殊な品目だけを集中して栽培するような場合、とたんに拡大の一途を辿ることになる。フリードリヒ大王の指導のもとに食糧事情の大幅な改善を目指していたプロイセンは、新しい作物への転換とその生産へとおおきく舵をきっていたため、この種の病気の伝播によって被害を受けやすい国の一つであった。

しかしこの病害がもっともひろく蔓延した地域は、1801年にイギリスによって併合された であろう。ここではこの病気を原因とする不作と凶作によって数年の間に百万人前後の人々が飢えることになり、死亡したといわれている。

このような事態が地域全体を荒廃させた大飢饉、いわゆる 飢饉であるが、これによってこの地方に住んでいた人々は、自らの土地を手放すことを余儀なくされた。彼らは故郷を離れ、新天地である北アメリカへと向かうことになる。

西ヨーロッパのほぼ中央に位置するフランスではどうであったろうか。比較的多種多様な植物が自生し、一つの作物生産のみに依存することのないこの国でも、環境の劇的な変化や自然がもたらす天変地異に対処することは難しかった。

フランスがこの食物の生産をはじめるのは比較的遅かった。それでも1845年前後からこの病気が確認されている。その直後には不作にみまわれ、さらに翌1847年には経済的な危機の影響を受けることになる。これによって大地と天候に依存してきた農民は、収穫の半減と現金収入の大幅な減少に悩まされる。また都市の住民は食料品の値上がりや失業に苦しむこととなる。このような危機に対し1830年に成立した 王政は、適切な対応策を打ち出すことができないうまま次第に国民の支持を失っていく。

こうした状況を打開しようとしていた同国では、他の国に先駆け選挙法改正運動が急激に高まり、よりおおくの人々の意見を集約しようとする制度が、さまざまな層の人々から支持をみつめることになった。しかし『ヨーロッパ文明史』の著者で歴史家としても知られる首相ギゾーは、「金持ちになり給え、そうすれば選挙人になれる」

と公言し、おおくの人々の反感をかっ。自らのことを「フランス国民の父」と呼んでいた当時の **D** 王は、この首相を更迭することで困難な状況の解決をはかった。

この時パリーで起きた一連の騒動の成果のひとつとしては、立憲君主制を倒し、臨時政府に加わったルイ=ブランが中心となって設置した **E** が特記されるだろう。これは不況下であえぐ失業者を救済するためのものであり、生産の国家統制をはかることで、新たな活路を見いだそうとしたものである。この改革はやがて社会主義的な方策の一つとして、ほかの国でも模倣されることになる。

このパリーにおける政変の影響で自由や独立をもとめる運動は急速にヨーロッパ各地にひろまっていくことになる。それゆえそれまで長い間西側からの脅威に対して防波堤の役割を担っていたウィーンの政府は、1848年に争乱のつぼへと追い込まれる。その典型的な例が先の余波を受けて生じたウィーン **F** である。これはこの首都を混乱に陥れただけでなく、さらにこの国が支配していた広大な領土にも大きな変動を招いた。

その典型的な例は、この国の領土内でつぎつぎに生じた独立国家をもとめる民族運動である。たとえばブダペストで引き起こされた政治家 **G** による反乱もその一つである。彼は自らの民族の自立のために憲法の改正と責任内閣制をウィーン政府にもとめ、成立した立憲政府では蔵相にまでなった人物である。しかし後に、介入してきたロシア軍に敗北する。直後に国外への亡命を余儀なくされ、客死することになる。

とはいえこの独立国家をもとめるための行動は、やがて「アウスグライヒ」をへて1867年に成立することになる **H** 帝国に至る大きなきっかけとなったといえよう。

同時にこの地域に住むドイツ語を母語としていた人々も解決をもとめていた。彼らは代表団を招集し、戦いによってではなく、話し合いによってあらたな統一と憲法制定を模索していた。この開催地となったのが、神聖ローマ帝国の自由都市であった **I** である。

この地で1848年5月に開催された国民議会によって、ドイツは統一にむけて大きな一歩を踏み出すことになる。ところがこの国の統一方式をめぐるには意見が鋭く対

立する。オーストリア領内に住むドイツ人の地域とベーメンを含める構想である **J** とプロイセンを中心にして、オーストリアを排除した形で統一国家を達成しようとする構想である **K** がそれであった。

他方この変革の影響は、東方に位置するロシア帝国にまで直接及ぶことはなかった。ロシアでは、皇帝による専制政治と古い土地制度がいぜんとして強くのこり、自由主義的な改革をもとめようとした動きはことごとく弾圧された。しかしながら1853年に勃発した **L** の敗北を経験し、改革と刷新の必要性を強く感じた皇帝 **M** は、ようやく1861年に **N** を出すなどの自由主義的改革を独自にすすめるにいたった。

その意味では直接的にはないが、間接的に西ヨーロッパにおける変化が、この東の帝国を揺り動かしたといえよう。

【設問Ⅰ】 上記の文章の **A** ~ **N** 内に入る最も適切な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 1848年においてヨーロッパでは多くの改革や蜂起、独立運動や民族運動の気運が高まった。このような動きは、歴史上何と呼ばれているのか。5文字で記述解答用紙に記入しなさい。

II 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

『論語』は春秋時代末期の孔子^①(前551年頃～前479年)と弟子の言行録で、孔子の死後、弟子によって編纂された書物である。以下は『論語』に関する文章である。

『論語』は中国でもっとも広くかつ長く読まれてきた書物である。紀元前2世紀、^②前漢の武帝が儒家思想を国家の指導原理、正統思想とし、孔子が編纂したとされる五^③経と合わせて、『論語』を知識人士大夫^④の必読書と定めて以来、約二千年にわたって、これらの書物は連綿と読まれてきた。とりわけ、『論語』は五経に比べれば、格段に読みやすいこともあって、時の経過とともに、知識人士大夫のみならず、庶民階層にも浸透し、読書人口は増加の一途をたどった。

さらにまた、南宋の朱子^⑤に至り、『大学』『中庸』『論語』『孟子』を四書と称し、孔子の思想のポイントを示すものとして、五経以上に重視するようになると、『論語』はとりわけ普遍的な必読書となり、子どもから大人まで読まない者はないという状態になった。

一方、日本では、『古事記』や『日本書紀』によれば、『論語』は応神天皇の時代に、百濟^⑥から渡来した王仁によってもたらされたという。これは伝説としても、おそらく6世紀初頭には日本に伝来し、以後、千年以上にわたって読み継がれた。江戸時代になると、上層階級のみならず、寺子屋などを通じて庶民階層にも浸透、普及していった。

このように、中国においても日本においても、『論語』はもっとも身近な古典として親しまれてきたが、近代以降^⑦、中国でも日本でも、古色蒼然とした堅苦しい聖人孔子の教訓書というイメージが強まり、しだいに敬遠されるようになった。しかし、近年、ことに日本では、混迷を深める時代状況とともに、『論語』がふたたび注目を集めるようになった。これはおそらく、『論語』を通じて、生きるよすがや指針を求めようとする動きだと思われる。しかし、それはやはり『論語』を教訓書としてのみとらえる読みかたにほかならず、それでは、せつかく無類の面白さにあふれるこの書物の魅力をとらえそこなってしまう。『論語』がいずこにおいても色あせない大古典として、長らく読み継がれてきたのは、単に教訓を記した無味乾燥な書物ではなく、読

む者の心を揺り動かす迫力と面白さに富むためだと思われる。『論語』の魅力、面白さは、その中心をなす孔子という人物の面白さ、魅力に由来する。

本質的に孔子は身も心も健やかにして明朗闊達、躍動的な精神の持ち主であった。いかなる不遇のどん底にあってもユーモア感覚たっぷり、学問や音楽を心から愛し、日常生活においても美意識を発揮するなど、生きることを楽しむ人だったのである。『論語』をじっくり読み、こうした孔子の稀有の魅力を感じとるとき、誰しも元気がわいてくるに相違ない。

(井波律子『論語入門』「序」(岩波新書, 2012年5月)より。一部改変した。)

【設問Ⅰ】 下線部①に関する以下の問に答えなさい。

孔子が生きた春秋時代末期から戦国時代に現れた、諸子百家と呼ばれる思想家や諸学派に関する(あ)～(え)の記述について、 ～ 内にあてはまる語を記述解答用紙に書きなさい。

- (あ) 儒家は孔子を祖として、徳治主義に立つ学派である。戦国時代には孟子が徳治主義を発展させて王道政治を唱え、 説を説いた。
- (い) 家は孔子の説く「仁」を差別的愛として批判し、無差別な愛「兼愛」を説いた。
- (ii) 法家は商鞅や らに代表される思想で、君主は法によって国家を統治するべきと説いた。 は荀子の弟子で、法家を大成し、のち秦に仕えたが、同門の李斯にねたまれ毒殺された。
- (え) 家は天文暦学を基盤とし、天体の運行によって起こる現象と人間生活との関係を説いた学派である。

【設問II】 下線部②に関する以下の問に答えなさい。

問1 前漢の儒学者で、儒学を、統一国家を支える原理とすることを武帝に建言した人物は誰か。その人物の名を①～⑤から選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 劉向 ② 張騫 ③ 班超 ④ 司馬遷 ⑤ 董仲舒

問2 次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。誤りが無い場合は⑥をマークしなさい。

- ① 「訓詁学」とは儒教の經典の字句解釈を主とした学問で、後漢でさかんになり、馬融や鄭玄らによって大成された。
- ② 後漢の歴史家である班固が著した『漢書』は、紀伝体という記述形式で書かれた歴史書である。儒教的色彩が強く、整然とした叙述形式で、のちの歴史書の模範となった。
- ③ 讖緯思想とは、中国古代の予言的な思想である。この讖緯思想を利用して、王莽は前漢を倒して周という王朝を建国した。
- ④ 後漢は劉秀が再建した漢王朝である。劉秀は豪族と結んで外戚を退け、儒教の奨励をおこなった。

【設問III】 下線部③に関する以下の問に答えなさい。

問1 「五経」のうち、中国最古の歌集で、西周から春秋戦国時代の華北各地の歌謡などの中から儒家が305編を選定し、編集したものは何か。その書物の名を記述解答用紙に書きなさい。

問2 唐の太宗は孔穎達らに命じて五経の注釈書『五経正義』を編纂させた。この唐の太宗の治世をたたえて何と呼ばれたか。記述解答用紙に書きなさい。

【設問Ⅳ】 下線部④に関する以下の問に答えなさい。

魏晋時代になると、乱世を反映して儒学の権威はゆらぎ、老荘思想に基づく清談と呼ばれる哲学的論談が文化人の中で流行した。下の絵は、魏晋時代の代表的な清談家達を描いたものである。阮籍、嵇康を中心とするこれらの人々を何と呼んだか。その名称を記述解答用紙に書きなさい。



(出典：『改訂版 高校世界史』山川出版社，2014年3月，70頁)

【設問Ⅴ】 下線部⑤に関する以下の問に答えなさい。

問1 朱子学で唱えられた理論で、君臣・父子の上下の身分関係を正そうとする考えを何論と言うか。記述解答用紙に書きなさい。

問2 次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。誤りが無い場合は㊟をマークしなさい。

- ㊰ 朱子学は、北宋の周敦頤に始まり、程顥・程頤兄弟が発展させた宋学を、朱熹（朱子）が大成したものである。
- ㊱ 朱熹が説いた「華夷の別」とは、漢族が自分たちの国を最も文化の卓越した中央の地とし、周辺諸国を文化のおくれた低劣の地と蔑視し、夷狄と称してこれを差別する思想である。
- ㊲ 陸九淵（陸象山）は南宋の儒学者で、禪宗の影響を受けて「心即理」という主観的な唯心論を唱え、朱熹と対立した。陸九淵の学説は明の陽明学に影響を与えた。
- ㊳ 明では朱子学を官学とし、永楽帝の時代には、『四書大全』や『性理大全』などの經典の国定注釈書が編纂された。

問3 以下の(㍁)～(㍃)の記述は東アジアの国々への朱子学の伝播について述べたものである。文中の ～ 内にあてはまる語を、記述解答用紙に書きなさい。

- (㍁) 14世紀末に建国された朝鮮王朝の初代の王である太祖 は、朱子学を官学にし、儒臣と呼ばれる新興官僚たちを抜擢した。
- (㍂) ベトナムでは15世紀前半に明の支配から独立して 朝が建てられた。首都はハノイである。この王朝では朱子学や国民文化が発達したが、西山党に滅ぼされた。
- (㍃) は15世紀初め、沖縄島にあった小国家を中山王尚氏が統一し、明に朝貢して中継貿易をおこなった。 では、中国に渡って朱子学を学ぶ者もいた。

【設問VI】 下線部㉔に関する以下の問に答えなさい。

4世紀から7世紀にかけて、朝鮮半島では百済を含めて三つの国が分立抗争していた。これらの国はいずれも中国の制度や文化を積極的に摂取した。次の記述のうち、百済について説明した文はどれか。最も適当なものを1つ

選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① この国は、朝鮮半島の北部に勢力をのぼし、前漢以来続いてきた中国勢力の拠点である楽浪郡を滅ぼした。4世紀後半の広開土王の時から隆盛期を迎えた。
- ② この国は、王建が朝鮮中部に建てた国で、都は開城である。この国では文官と武官からなる両班制という官僚制度を導入した。
- ③ この国は、朝鮮半島の西南部に位置し、三韓のひとつである馬韓が統一されて作られた国で、都は漢城に置かれた。
- ④ この国は、朝鮮半島の東南部に位置していたが、7世紀に唐の支援を受けて朝鮮半島の大部分を支配するようになった。この国では骨品制という独自の身分制度が行われ、仏教文化が栄えた。

【設問Ⅶ】 下線部⑦に関する以下の問に答えなさい。

問1 清末、公羊学派くようがくの儒学者である康有為こうゆうゐは、『孔子改制考』を著して、孔子は聖人の言をかりて当時の政治の改革を実現しようとした人物であるという大胆な新解釈を提示した。康有為らが中心となり、議会政治を基盤とする立憲君主政の樹立を目標とした近代化運動を何と言うか。最も適当なものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 変法自強 ② 仇教運動 ③ 辛亥革命 ④ 新文化運動
- ⑤ 洋務運動

問2 中国では1970年代前半、文化大革命のさなかに、江青や四人組によって林彪りんびょうと孔子を批判する運動「批林批孔運動ひりんひこう」が展開された。しかし、この運動の真の標的とされたのは、中華人民共和国の初代首相（国務院総理）となった周恩来であった。周恩来の死後、1976年から首相に就任し、四人組を逮捕・打倒した人物は誰か。最も適当なものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 鄧小平 ② 華国鋒 ③ 江沢民 ④ 劉少奇 ⑤ 蔣介石

Ⅲ 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(35点)

ヨーロッパでは、戦争が繰り返されてきた。特に、第一次世界大戦における各国の被害は甚大であったため、これを契機に、平和に向けた取り組みのひとつとして、ヨーロッパの統合が模索されるようになった。たとえば、「ヨーロッパ統合の父」と後によばれるフランスの政治家ジャン・モネは、フランスとドイツの国境地帯で採掘される資源の共同管理を提唱した。しかし、1929年に発生した世界恐慌（大恐慌、世界経済恐慌）の下、イギリスやフランスはブロック経済体制により危機を乗り越えようとした。このとき、イギリスが形成した経済圏は、ブロック、フランスが形成した経済圏は、ブロックとよばれた。一方、ブロック市場から排除されたドイツやイタリアは、軍事力に基づく植民地の再編成により新たなブロック市場を形成しようとした。これらなどによりヨーロッパにナショナリズムが起り、第二次世界大戦が勃発した。

第二次世界大戦後も、ヨーロッパ各国の関係は必ずしも円滑ではなかった。たとえば、1945年に米英ソの首脳がベルリン郊外に集まりドイツ処理について定めた会談に招かれなかったことを理由に、フランスはドイツに対する統一的な占領行政に反対し、ドイツ東西分裂の一因となった。さらに、ヨーロッパの戦後処理を巡り米ソの対立が表面化した。ソ連は、ロシア革命以来、たびたびソ連への侵攻基地となった東ヨーロッパに、親ソ友好国が建設されることを望んだ。東ヨーロッパの人民民主主義政府を支援し、自国の安全保障を確保しようとするソ連の行動を、米英は共産主義の危険な膨張と考え、米国は対ソ戦略として「封じ込め政策」を採用した。1947年には、ヨーロッパの共産化を防止することを主な目的に、米国はヨーロッパ経済の復興を援助するべく、プランを発表した。西ヨーロッパ諸国はプランを受け入れ、1948年、ヨーロッパ経済協力機構（OEEC）が成立した。この経済協力体制により西ヨーロッパの経済は急速に復興し、戦後の経済混乱で国民の不満を背景に勢力を伸ばしていたフランスとイタリアにおける共産党の躍進を阻止した。

一方、ソ連は東ヨーロッパ支配の強化に努め、プランおよびヨーロッパ経済協力機構に対抗する経済協力機構として、1949年、東ヨーロッパ諸国との間に

E を設立した。双方の対抗措置によって冷戦構造が形成され、歴史的・文化的・民族的背景を無視してヨーロッパは東西に分断された。

第二次世界大戦で疲弊したヨーロッパは、米ソ二大国の軍事的圧迫と冷戦による東西分割、海外植民地の独立、日米の経済発展などにより国際的地位を大きく低下させた。そこで、^②ヨーロッパを統合し国際的地位を高めること、そのためには仏独間の対立を解消し、ヨーロッパに恒久的な平和を確保することの必要性が認識されるようになった。

ヨーロッパの統合は、国民国家の枠を越えた資源や市場の共同利用を図る経済統合から始められ、統合の次元が徐々に高められていった。ヨーロッパ経済協力機構を経済協力の出発点に、さらに、ジャン=モネが提唱し、フランス外相ロベール=シューマンが具体化したシューマン=プラン（1950年）に基づき、1952年、**F** がフランス・西ドイツ・ベネルクス3国・イタリアの間で発足した。これにより、ヨーロッパにおける長年の対立を解消し和解と平和を進めようとした。次いで、経済統合の対象をより広範な領域へと拡大するべく、ローマ条約にもとづいて、1958年、**G** が発足した。この結果、西ヨーロッパの経済復興はさらに進展し、西ヨーロッパは米国の経済支配から脱すると共に、東ヨーロッパを経済的に圧倒するようになった。さらに、同1958年、原子力エネルギーの共同管理と共同開発をおこなうため、**H** が発足した。これらの機関は各国間の単なる協力機関ではなく、超国家的機関として各国政府の政策決定に拘束力を持った。そして、**F**、**G**、**H** の3組織が統一され、1967年、**I** が発足した。これにより、加盟国相互の関税や数量制限などの貿易制限を撤廃して域内貿易を自由化するとともに、域外に対しては共通関税を設ける関税同盟を完成させた。また共通の農業・エネルギー・運輸政策を実施し、資本や労働力の自由化も進め、世界に類のない経済統合を実現した。この間、1963年、仏独相互協力条約が調印されるなど、フランスと西ドイツの歴史的な和解による「パリ=ボン枢軸」がヨーロッパ統合を推進する原動力となった。^③

上のように、ヨーロッパの統合は、当初、経済分野での協力を中心におこなわれた。そして、緊張緩和（デタント）と冷戦（冷たい戦争）の終結に伴い、ヨーロッパにおける安全保障環境も大きく変わった。^④1991年に合意、1992年に採択された **J**

条約により、ヨーロッパ連合（EU）が誕生し、通貨や政治における統合が進んだ。その後も、旧共産主義圏の中欧・東欧諸国を取り込みながら、ヨーロッパ連合は拡大と深化を模索してきた。^⑤

【設問Ⅰ】 前の文章の A ～ J 内に入る最も適切な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】

問1 下線部①に関する以下の記述(あ(い))について、正しいものにはⒶを、誤っているものにはⒷをマーク解答用紙にマークしなさい。

(あ) アルザス・ロレーヌ（エルザス・ロートリンゲン）は、鉱物資源が豊富であることなどから、仏独間の係争地となってきた。プロイセン＝フランス（普仏）戦争によりドイツがフランスから獲得した後、第一次世界大戦の戦後処理を定めたヴェルサイユ条約により再びフランスが獲得した。

(い) フランスはドイツに対する敵愾心^{てきがいしん}を抱いていたため、第一次世界大戦における講和条件を討議したパリ講和会議において、フランス首相であったクレマンソーは、ドイツに対する厳しい制裁とドイツの弱体化を主張した。

問2 下線部②に関連し、以下はヨーロッパの本国と植民地の組み合わせである。空欄(あ)～(え)内に入る最も適切なヨーロッパの本国を選択肢④～①から1つずつ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。なお、同一の選択肢を複数回、使用してもよい。

ヨーロッパの本国	植民地
(あ)	アルジェリア
(い)	チュニジア
(う)	ナイジェリア
(え)	リビア

- ㉑ イギリス
- ㉒ フランス
- ㉓ ドイツ
- ㉔ イタリア
- ㉕ オランダ
- ㉖ スペイン

問3 下線部③に関連し、以下は歴代のフランスの大統領（第五共和政以降）とドイツ連邦共和国（西ドイツ）の首相（連邦首相）である。□(あ)～□(お) 内に入る最も適切な人名を選択肢㉑～㉖から1つずつ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。なお、括弧内の数字は在任期間（年）である。

	フランスの大統領	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の首相（連邦首相）
50年代	□(あ) (1959-1969)	□(う) (1949-1963)
60年代		エアハルト (1963-1966) キージンガー (1966-1969)
70年代	ポンピドゥー (1969-1974)	□(え) (1969-1974)
80年代	ジスカールデスタン (1974-1981) □(い) (1981-1995)	シュミット (1974-1982) □(お) (1982-1998)

- ㉑ アデナウアー
- ㉒ コール
- ㉓ ド=ゴール
- ㉔ シュレーダー
- ㉕ シラク
- ㉖ ブラント
- ㉗ ホネカー（ホーネッカー）
- ㉘ ミッテラン

問4 下線部④に関する以下の記述(あ)い)について、正しいものにはⒶを、誤っているものにはⒷをマーク解答用紙にマークしなさい。

(あ) 1960年代末の軍事衝突でソ連の軍事的優位を痛感した中国は、ソ連を主要な敵と考えていた。この中ソ対立を利用して、ベトナム戦争に悩む米国は対中関係を改善し、中国と北ベトナムとの離反を図りながら、アジアでは日中と提携してソ連に対抗した。一方、米中接近を圧力としてヨーロッパにおいてソ連との緊張緩和（デタント）を進めようとした。

(い) 西ドイツはヨーロッパにおける緊張緩和に前向きで、東方外交として社会主義諸国との和解を積極的に進めた。1970年代に入ると、西ドイツは、ソ連=西ドイツ武力不行使条約（モスクワ条約）に調印し、ついで、ポーランドとの国交正常化条約に調印した。さらに、東西ドイツ基本条約により、東西ドイツは相互に主権国家として承認しあい、翌年、両国は国際連合に加盟した。

問5 下線部⑤に関連し、ヨーロッパ連合（EU）の加盟国ではない国を、選択肢①～⑤から1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- Ⓐ エストニア
- Ⓑ クロアチア
- Ⓒ スロヴァキア
- Ⓓ セルビア
- Ⓔ ラトヴィア
- ① リトアニア

